

令和元年度第2回仙北市総合教育会議 会議録

開催日時 令和元年8月29日(木) 午後3時00分

開催場所 仙北市役所角館庁舎 西側庁舎2階 第3会議室

出席者

(構成員)

仙北市長	門脇光浩
仙北市教育委員会教育長	熊谷徹
仙北市教育委員会教育長職務代理者	安部哲男
仙北市教育委員会委員	坂本佐穂
仙北市教育委員会委員	橋本勲
仙北市教育委員会委員	細川伸也

(市長部局)

仙北市副市長	倉橋典夫
総務部長	阿部慶太
総務課長	朝水勝巳
総務課主事	小林佳織

(教育委員会)

教育部長	戸澤浩
教育次長	三浦政喜
教育次長兼教育総務課長	浅利美智子
教育総務課課長補佐兼管理係長	小林龍夫

## 案 件

### (1) 仙北市立生保内小学校の改修について

阿部総務部長       ただいまから、令和元年度第2回仙北市総合教育会議を開催させていただきます。

はじめに、会議の主催者であります、門脇市長からごあいさつをお願いいたします。

門脇市長           改めて、皆さま方にはお疲れのところ大変恐縮でありますけれども、どうか、今回の総合教育会議の議論が大変重要だという視点で活発なご議論をいただければありがたく思います。

少し思いをお話させていただきたいと思います。今回の協議案件は、「仙北市立生保内小学校の改修について」ということで皆さま方と協議をさせていただきたいということを申し上げております。すでに、生保内小学校の大規模改修等については、事業は先行して着手はされているわけでありましてけれども、タイミングとしては、今実施設計の発注に入らなければいけないというタイミングだということもありますので、あえてこのタイミングで皆さま方のご協議をさせていただきたいということの重要性は、ご認識をいただけるものと思います。このあとも続く予定の各義務教育施設の改修等については、これまでに私どもが想定した以上の様々な社会的変化が、どのようにこれらの事業に影響を及ぼすかということの中々イメージできないままに、この生保内小学校の改修事業を着手することに躊躇っているという現状です。この一連の計画を策定していた当時、今から2・3年前の話でありますけれども、人口減少がどうなるのか少子化がどの程度進むのか、一方で、高齢者比率がどれぐらい伸びていくのかということをして市の総合計画及び市の総合戦略等で指し示していたわけでありましてけれども、実態は、それ以上に急激な社会的変化を認識せざるを得ない状況だということが大きな要因であります。昨年度の仙北市の出生者

数が初めて100人を切り98人だったわけでありませけれども、今年このペースでいくと80人台に乗るかどうかという状況がもう見えてきています。出生者数ですので、そののちの想定をするのは相当難しい現状もありますけれども、婚姻率等を考えても大きく現状のままで伸びるという可能性は高くはないだろうと見るしかない現状です。もう一方で、高齢化比率が40パーセントを超えて41パーセント台に乗ってしまったという現状が、つい先日、統計数値の確認ができました。こういったいくつかの現状を客観的に判断しなければいけない現状です。9月定例議会では、こののちの各事業については、大きな方向転換を決断しなければいけないという発言を言及しなければいけないという状況にあります。併せて、財政の問題であります。合併以来、着手できないでいた多くの事業がやっとコンセンサスをいただいて動き始めている中で、財源の確保が難しいという現状があっても、こののちの仙北市の形づくりをするためには、必要不可欠な事業をいくつも抱えておりますので、あくまでも未来予想をしながらしっかりと実現していくという表明をこの9月定例議会でさせていただこうと思っています。様々な社会的要因の変化があつて、これまでと同様の考え方ではなく、事業計画があつたとしても、その時点に応じて見極めて事業に着手していくという必要性をさらに深めたという現状であります。今私が思い出しているのは、寺田県政時代に寺田前知事が子育て税を言い始めた時に、「その要因は？」という多くの県民からの質問に、「税が不足している」と。「子どもたちは将来の秋田県民の宝なので、子どもたちに税がないことでのしわ寄せは絶対にさせたくない」という固い決意をお話された方でしたけれども、「だけれども、この現状のままでは、教育に関する財政運用を聖域化することができない」という明確なお話をされたことを思い出しております。仙北市は、今まさにその状況に差し迫っているというふうに考えなければいけないと思っております。以上のことも考慮いただ

きながら、教育委員会の皆さまには、最善の方法を議論していただき、コストパフォーマンスの高い学校改修を議論していただきたいというお願いの思いがあって、今回の協議案件にさせていただいたということでございます。事業進行上、今日を持って一定の方向付けをしなければ、実施設計の着手や年度を越える見込み等、色々な不都合が出てきます。大変申し上げにくいのですが、今回の総合教育会議でそのとおりだということまで近づく議論がないと、今回のこの会議で意思を確定するという事は難しいのかなという思いを持って、この場面に当たっております。ご理解いただきたいと思っております。できるだけ、教育委員会の中で様々な視点からご議論いただいたことを、どうか執行部側の方とも共有していただけるような議論の会にしたいと思っております。どうか、よろしくお願い申し上げます。

阿部総務部長        ありがとうございます。続いて、熊谷教育長からごあいさつをお願いいたします。

熊谷教育長        ご苦勞様です。今、市長からもありましたけれども、この会議の前に教育委員会で様々な課題について議論を交わしたところでございますけれども、教育委員会関係で非常に課題等山積しておりまして、教育委員会や市の行政にもご心配をお掛けしているわけでございますけれども、皆さまからご意見やご指導等をいただきながら、市長がおっしゃったようにより良いものを目指して参りたいと思いますので、どうか、よろしくお願い申し上げます。

阿部総務部長        ありがとうございます。それでは、協議案件に入りたいと思います。本日の案件は、「仙北市立生保内小学校の改修について」でございます。ここからの進行につきましては、門脇市長からお願いいたします。

門脇市長                    はい。協議案件に入りたいと思います。はじめに、協議案件（１）「仙北市立生保内小学校の改修について」であります。教育委員会から説明をお願いします。

浅利教育次長  
兼教育総務課  
長                    お手元に配付してある資料なのですが、今までの打合せ等により１枚の資料にまとめてみました。それが、北校舎を除くパターンと４棟全部改修するというパターンの説明になっております。これは、あくまでも平成３１年度当初予算にて、実施設計を今年度行うということに基づいた資料となっております。もう１枚の方は、小中一貫校等の資料となっておりますのでご一読をお願いいたします。資料については、担当の小林教育総務課課長補佐の方から説明させていただきます。

小林教育総務  
課課長補佐兼  
管理係長                はい。それでは、資料について、右上の１／７から説明させていただきます。

平成３１年度当初としまして、校舎３棟、屋体（体育館）１棟の４棟を整備する前提で計画をしておりました。これに関して、コストダウン案ということで、⑪普通教室棟を未整備にし、未整備であればどうなるのかの対比ということで資料を作成してございます。なお、解体撤去工事個所というものがございまして、こちらは交付金対象外事業となるということで、こういった部分が事業費を押し上げている要因になっていることをご理解いただければと思っております。簡単に、長寿命化改良事業というものがどういうものか、原則必須となっている事項について１から７のとおりとなっております。構造体の長寿命化ということで様々な諸対策、耐久性に優れた材料の使用ということで外装・屋根材の高機能、高耐久性素材の採用、多様な学習内容・形態への対応（少人数学習等への設備対応）、省エネ・バリアフリー化への対応等、原則としてこういったものを必須事項としております。次に、４棟整備におけるメリッ

ト・デメリット（建物ベース）についてです。メリットとして、現在の生保内小学校が学校施設として担う機能「学校」、「放課後児童クラブ」、「防災・災害拠点」について、包括的に整備することが可能であり費用対効果が高いと考えています。デメリットといたしましては、通常の大規模改修と異なりまして、今後30年の使用に耐えうる品質での改良工事を行う必要があるため、費用の掛かり増しになる可能性があります。続いて、2/7です。縮小案ということで、北校舎をそのまま未整備で学校施設として使用するものです。メリット①として、今後の児童減少に対して、当該の北校舎棟への費用投入を抑えつつ、しばらくは教室並びに「放課後児童クラブへの居室提供」が可能であり、状況によっては、早期の建物解体も視野に入れての周辺整備が可能となっております。メリット②として、交付金充当がないことから、棟として財産処分が容易であり短期的な市負担額についても低減が図られると考えます。また、デメリット①として、北校舎を学校施設、放課後児童クラブへ貸し出す場合、校内環境に非常に大きな違いが生じると考えられます。デメリット②として、屋根改修等を実施しない場合、躯体への凍害や軒先コンクリート落下破損の可能性も考えられ様々な弊害が生じると考えています。また、落雪対応が難しい構造であることも、未整備で使う場合に中々大きなデメリットになると考えられます。デメリット③としましては、現状の受水槽・高架水槽を継続して使用する場合、老朽化により給水に支障をきたす可能性が非常に高くなります。こういった以外にも様々な影響はあろうかと思いますが、こういった要素があると考えられます。続きまして、3/7ですが、北校舎を教育財産より財産処分し、学校ではない用途で渡り廊下を封鎖する、別の棟として完全に切り離れた運用とする場合の対比です。メリットについてですが、放課後児童クラブとして、厚労省等の施設整備補助事業を実施しやすいということが考えられますが、昨年度から今年度にかけては対象外になっておりますの

で、今後の進展によってはというふうな考え方です。また、動線を完全に切り分けられることで、北校舎周辺への学校運営管理上の学校側の負担が減ると予想されます。デメリットに關しましては、先のデメリットとも重複する部分がありますが、財産処分後の北校舎は、改修される他棟の火災報知設備親局と切り離されるため、火災報知設備親局機器の新設が必要になると考えられます。また、仮に旧北校舎棟へ学校設備から（電力・上水等を）供給する場合、補助事業で導入した設備を他用途に使用する場合には、床面積分の補助金の一部で用途外使用というような協議が必要になる可能性があります。この場合、別途接続工事費等が必要になる可能性があると考えております。さらに、管理棟と北校舎を物理的に分離する場合、様々な不要経費の発生が懸念されます。4 / 7ですが、北校舎を撤去し学校敷地の再整備を考えた場合ということで、あまりメリットはないかと思えますけれども、学校機能や動線廻りの再整備を行うこと、冬季堆雪対応や車両配置等について大幅な改良が可能かと考えます。デメリットとしましては、これまでの部分に新しく何か建てるということになれば、（仮に放課後児童クラブ等の）鉄骨プレハブリース等の長期リース費の負担増が生じ、外構改修工事についても校舎を残した場合よりも費用が増大する可能性が高いと考えます。また、耐震診断・耐力度測定済みのRC建造物で、且つ、1, 200 m<sup>2</sup>程度の建築構造物が体育館と接続されて、今後はエレベーター等で2階へ資材搬入が容易化されつつある貴重な棟であり、防災倉庫転用などへも今後転用可能ではないかと考えております。5 / 7ですが、費用の資料になります。①が4棟の全体改修をした場合の概算額となっております。対象外事業費につきましては、敷地内の不要建物撤去が900万、概算ですので増減前提と考えています。外構工事につきましては、他工事の参考からの5, 000万、こちらもある程度の精査で絞り込むことが可能かと考えています。それ以外の分に関しましては、基本的に交付対象の面積の

割り返しの額でございまして、概算事務費としましては、交付対象事業として6億4,900万、財源につきましては、国庫補助金が1/3、起債が40%、一般財源相当額が赤い文字で記載している部分で考えております。②が3棟の全体改修を行った場合の概算額となっております。対象外事業の北校舎の部分については、長寿命化ではなく現況を維持する場合の各改修工事の概算額の合計を記入してございまして、この部分に関しましては、トイレの改修、給排水の設備は接続替えの補修、屋根は現在ある屋根の防水工事という名目で概算見積もりをいただいております、それを計上させていただいております。これは交付金対象事業ではなくなりますので、一般財源相当額の赤い文字で記載している程度の額になるかと思っております。6/7はレイアウトになりまして、こちらは平成31年度当初案であり、こういう図面でのプランニングからスタートしております。あくまでも概算であり設計もまだ入っていない状況ですので、参考ということをお願いいたします。7/7ですけれども、3棟のコストダウン案とした場合のレイアウトを検討したものでございます。青枠の部分が当初の4棟案との違いを示しており、このようなことが検討されるであろうという案です。教室等の少人数学習の部分があるので、南校舎と特別教室、図書室とPC室を統合し、面積を縮減するようなパターンが考えられます。あとは、多目スペース等の少し広めのスペースがなくなってしまうので、玄関のところを転用することができるのでは？という案です。こちらでも設計等がまだ入っていない状況ですので、このようなパターンが考えられるという程度案の資料として見ていただければと思います。また、北校舎の渡り廊下についてということで、先ほどお話したように様々なパターンが考えられまして、実施設計や消防協議、建築費協議等、専門的な要素が非常に高くなりますので、慎重な方向性の検討を要すると考えます。簡単ではございますが、資料の説明は以上とさせていただきます。



門脇市長

はい。今のお話は、おそらく前の教育委員会でも議論になっていると思いますので、委員の方々も含め皆さま方整理できていると思います。皆さま方からご意見をいただきたいと思いません。

財政を無視することはできないけれども、あまりそれを過度に受け止めてしまうと、教育的な立場からするとよろしくない計画になりそうだという心配もあるわけで、あまり財政議論を出したくないということは、まずご理解いただきたいと思いません。しかしながら、実際にお金がなければ事業はできないわけで、そこについては一定の配慮をいただきたいという、この程度のレベルの意見をいただきたいのが1つと、やはりこういう話になるとテクニック論になってしまって、自分は先ほどから話を聞いていて理解はできるんですけども、本来、生保内小学校が地域でこのあと計画的に教育を行っていく拠点だと、併せて、地域の方々の心の支えどころになるというような、まちづくりの観点からいくと学校はそういう役割・機能を果たしてきたわけでありましてけれども、そういう市民の方々との寄り添い支え合って次の時代の市民を育てていくという、拠点センターとしてのあり方が、今の議論のままいくとテクニック論に終わってしまいそうで心配していて、本来的に学校という形のものをしっかり地域の方々と一緒につくっていくという、そこで教育委員会の方々の大きな情熱がなければいけないわけで、その視点を持ってぜひ皆さま方にはご議論いただきたいというふうな思いがあります。

では、安部教育長職務代理者の方からお願いします。

安部教育長職務代理者

まず1つ、門脇市長に確認したいんですけども、小中一貫教育ということで資料にあります、議論にブレーキをかけるような言い方で申し訳ないですが、前回の総合教育会議の時は、将来の仙北市の学校の未来図が明確になっていないと。それに

については、市長に責任があるとご自分でもおっしゃいましたし、私たちも中々考えがまとまっていなかったということがありました。それで、時間を貸していただきたいということで、時間を貸していただいたんですけれども、正直に言って、その後あまり進展はありませんでした。本来であれば、そちらの方を先に決めて、それからの話になるのかなと私は思っているのですが、熊谷教育長の最初のあいさつを聞くと、この協議案件はあまり時間がないということで、今日の議論が最終となるだろうというようなお話でしたので、今後のデザイン云々については、この学校についてはともかくとしてという形で進めるという意味なのでしょうか。

門脇市長

安部教育長職務代理者をご心配したことと今のご発言について、私の思いはむしろ反対で、最初の開会の時に私がお伝えしたのは、本来であれば、この場面で生保内小学校の改修については進めるサインを出さなければいけないという時期ではあるけれども、私や皆さんが納得できるビジョンを描き切れていない中での見切りスタートはしたくない、という内容をお話させていただきました。これが1つと、それからこれは教育委員の方には大変申し訳ない言い方ですけれども、例えば、北側校舎を改修する必要があるのかなのか、これは今後の児童数の減少を推測した場合の話であるとか、また、生保内中学校も新しい学校ではないので、小中一貫校についても当然教育委員会で議論していなければいけないことではないかとか、教育委員会事務局と総務部とのやり取りの中でしか出でこない。こういう密度、濃度で重要な事業を進めて良いのですか、というのが自分の考えです。本来であれば、例えば学校の再編計画について、あれだけ皆さん方がご議論されて素晴らしい計画を立てられて、スタートするスイッチをつくっていただいたと。あの議論の時に、本来であれば、その他の学校についてもどのようなビジョンを描くのかということを議論していただかな

ければいけなかったのではないかと私は思っています。このあと様々な学校が改修しなければいけないという状況になった時に、1つ1つの議論をしなければいけなくなってしまったという状況は、好ましいことではないと思っています。しかしながら、それは言っても仕方がないことで、このあと未来的に学校を改修する時には、児童数・生徒数がどれだけ減少していくのか、だけれども子どもたちにとってしっかりとした教育を提供していくという行政の役割を果たすために、さらに言うと、人口が減少していく中で子どもたち、さらに子どもたち1人1人の存在は大切になってきますから、地域の方々とさらに密接な付き合いが必要になってくるだろうという考え方で、こののちの教育の現場としての学校の構想を描いてくれているのですか、という話を前回の総合教育会議で自分はしたつもりです。その議論を私たちは待っていますという思いで、今回の総合教育会議まで引き継がれたと思っています。しかし、先ほど安部教育長職務代理者の発言どおり、正直にお話いただいてありがたかったのですけれども、中々そこの進展がなかったということで、各委員の方々が同じようなお気持ちだとすれば、おそらく私たちが言っているような、例えば、北側校舎に手をつけずに改修を行うことで子どもたちの教育はどうなるかという提案、小中一貫校は皆さん議論されているのかという提案、総務部から出ている状況です。この状況は良くないのではないかとことを思っています。ですので、教育委員の方々からその1つ1つの場面について、深く議論していただきたい。それに対して、市民の方々や議会の方々がご納得してそれを応援していくという体制をとりたいということです。改めて言いますけれども、今回の総合教育会議で私が納得できない状況での見切りスタートはしない、というふうに思っております。

安部教育長職務代理者

はい。ありがとうございます。議論を途中で止めてしまって申し訳なかったです。ただ、教育委員会では、全く議論しなか

ったわけではなくて、まとまるどころまではいかなかったということは、ご理解いただきたいと思います。この前の教育委員会で、現状のまま大規模改修をするか、北校舎の1部は改修せずに他の改修を行う大規模改修かという、そういう議論だったのですけれども、今、小林教育総務課課長補佐から説明があった詳細な資料を読ませてもらったのですが、中々自分はすぐに理解できないというのが正直なところなのですが、直感的な言い方をすると、どちらもメリット・デメリットはあるのでしようけれども、全部改修するとして、数年後にそれが全部使用することができるのかというのが私の疑問でした。つまり、空き教室がガラガラと出てくるのではないかと。将来の児童数に見合った改修を考えた方が良いのではないかとというのが私の意見です。

門脇市長

ありがとうございます。橋本教育委員、お願いします。

橋本教育委員

冒頭の市長のあいさつの中で、非常に財源が厳しいというお話を伺いましたけれども、生保内小学校は、仙北市の他の小学校と比べても老朽化が著しいと思います。ということで、改修の必要性を私は強く感じています。この前の資料の中で先生方から要望が出ていました。様々な不便、不都合なことがあるけれども、近い将来大規模改修が行われる予定だということで、先生方も我慢して暮らしているということがありました。そのことについては、保護者や生徒の皆さんは同じような気持ちではないかと思います。今年度に生保内小学校を長寿命化事業で改修をするということを前提とした、実施設計の予算が計上されて可決になっておりますので、私は、生保内小学校については、当初の計画に沿って進めていくことが必要ではないかと思います。ここで一度この議論をストップして、小中一貫校まで範囲を広げて議論するとなれば、それには非常に時間が掛かると思います。その時間の中で、現在の生保内小学校を改修等を

行わずに手を付けないで使用していくことは、だんだん不可能になってくると思います。そうなれば当然、毎年少しずつ改修するということになれば、その財源はほとんど一般財源になると思います。お金をかけて最後に取り壊すとかなくなった場合は、非常に無駄な支出ではないかというふうに思います。北校舎を除いた改修という案も1つありますけれども、逆に考えると、これから地域の皆さんが学校に来て様々な打合せをするとか会議を開くとか、そういったことができるように、北校舎も改修しておいて、空き教室になった場合はそういう活用ができるような形で改修していくというのも、1つの方法ではないかと思います。先ほど財源のことでお話がありましたけれども、資料の5/7でいけば、財源的にはほとんど大差がないということだと思いますので、私個人的には、生保内小学校の改修については、待ったなしの状況ではないかと思います。交付金事業の中で今やるべきではないかと考えています。

門脇市長

ありがとうございます。もちろん、生保内小学校の改修が不要だということではなくて、すでに事前に調査事業まで予算をいただいて調査結果に基づいて、このような実施設計に入っていこうという流れが確実なものですので、私たちも教育委員会の皆さんと一緒に進めていかなければいけないと思っていることは間違いないのですけれども、その進め方の中で、様々な事象の変化に対応して進めて欲しいということがまず1つと、財源論については言いたいところはたくさんあるのですけれども、例えば、交付金対象事業費以外の対象外事業費で、この数字からいくと3億くらいを一般財源で出しましょうという話になっているものについては、おそらく議会は全く同意しないでしょう。なぜかと言うと、今まで教育委員会で国庫補助事業を導入して様々な事業を行ってきておりますけれども、その事業費に対して対象外の一般財源が、今までも非常に多く支出されているということを心配している方々も多くいらっしゃる

いますので、できる限りその部分については圧縮をしていく必要があるという配慮が必要だと思います。しかしながら、生保内小学校の改修はしなければいけないということは、全く橋本教育委員の言うとおりでありまして、子どもたちに財源論で窮屈な思いをさせるのはできるだけ避けたいということも、橋本教育委員のおっしゃるとおりであります。ありがとうございます。

細川教育委員からお願いします。

細川教育委員　私も橋本教育委員の意見に賛成です。仙北市の中で一番老朽化している小学校ですので、大人が考えていることと子どもが考えていることは違うと思うのですけれども、やはり新しい綺麗な校舎で勉強させたいという思いが保護者の中でも生保内の地域の中でもあると思いますので、自分も難しい話はあまりわからなくて一生懸命考えているのですけれども、できる限り新しいものを提供していただければと思っています。

門脇市長　ありがとうございます。細川教育委員の思いも皆さん一緒の思いだと思っています。あとはそれをどうやって実現していくかという方法だと思いますけれども、あまり方法に流されると、本来の教育委員会の大切な教育という部分でぶれてしまうと大変ですので、そこらへんが私たちも難しいと感じている部分であり、そういう状況だということをご理解いただきたいと思います。

坂本教育委員からお願いします。

坂本教育委員　まず、今日遅れてしまい大変申し訳ございませんでした。協議案件からは少し外れますが、英語の暗唱弁論大会に行ってきたとして、英語ができる仙北市の子どもたちが確実に育っているなと思いました。素晴らしかったです。結果までは聞かずに帰ってきましたけれども、西明寺中、角館中、神代中、桧木内中

の発表を聞きましたけれども、皆さん本当に素晴らしかったです。

生保内小学校ですけれども、先日学校訪問で見させていただきまして、やはり子どもたちは我慢しているなという様子は、非常に見て取れました。今ここで立ち止まってという話もありましたけれども、改修は進めなければいけないのではないかと考えております。特にトイレが可哀想で、臭いとか和式が多いこと、廊下の狭さなど気になる場所が多々ありましたので、一刻も早く良い環境を児童ファーストで提供してあげたいなという思いをして学校訪問して参りました。個人的には、小中一貫校に関しても非常に強い興味を持っておりましたので、これも考えの1つということはあるのですけれども、やはりそれとこの改修とを一緒に考えてしまうと、どうしても遅れが出てしまうのではないかと思いますので、私は早急な改修を望みます。

門脇市長

ありがとうございます。他に皆さま方からお話があれば、ご発言をお願いします。

倉橋副市長

市長も同じなのですけれども、改修しないということではないです。改修はします。改修のあり方をどうするかということです。5年後に生保内小学校に入る子どもは10人前後しかいません。その状態がそれ以降も続いていく状況です。大変危機感を持っております。そんな中で、北校舎も含めた全部の改修というのは、議会の皆さんや市民の皆さんのご理解を得られるかという状況です。このように状況が変わってきております。今1学年20～30人くらいおりますけれども、それが急に10人前後になるということは、非常に危機感を覚えておりますし、この改修事業に影響せざるを得ないというのがまず1つあります。それで、北校舎に手をかけなければどうなるのかという提案をこちらからしました。資料を見させていただきました

けれども、例えば、資料の5/7で、少なくとも北校舎の一般財源が4,240万、当然起債の6,360万もなくなるわけですから、将来的な財政負担もそこでいくらかは減るということとは間違いないと思います。もし北校舎に手をかけない場合。それから、対象外事業として4,620万とありますけれども、もし、少なくとも北校舎に手をかけないとなった場合、来年度予算でこの4,620万は予算措置できないと思います。その分は、確実に来年度当初予算は減るというふうに見ていただきたいと思います。先ほどの説明でもありましたように、一部増築6,000万とその他工事、実施設計の段階で精査できる部分があると思いますので、これがそのまま工事費になるとは、私は判断しておりません。それらで少なくとも一般財源が2億5,000万を下回る、2億円ちょっとくらいで収まらないのかなと、これは財政的な観点からの希望ですけれども。それは実施設計の中で精査していくべきだと思います。それから、その他の7/7の整備、北校舎を除いた整備については、異議等ございません。そうした精査をした中で判断をしなければならぬのではないかと思います。

門脇市長                    部長さん方からもお話をお聞きしたいと思います。

阿部総務部長            今副市長がお話したように、今後の児童数・生徒数の考慮が必要だと思います。現状のままでよいのかという疑問がございまして、そこのところを色々検討していきたいということです。小中一貫教育についてもどうかということを先日お話ししたところです。

門脇市長                    戸澤教育部長はどうでしょうか。

戸澤教育部長            事務局の中でも協議しましたが、現場の先生方の意見を良く聴いて進めなければならないと思います。総合教育会議の中だ



けで結果を出して進めていくことは危険なのかなと、そんな思いもしております。

門脇市長 教育長からご発言をお願いします。

熊谷教育長 今回の副市長のお話で、5年後には10人前後という話を聞いて大変驚いております。ただ、どこの学校もそういう状況がありうると思います。今生保内小学校の現状というのは、狭い空間に押し込められているという状況です。他の学校と比べると、生保内小学校はマイナスからのスタートです。今まで我慢してきて、改修を行うことで少しでも伸び伸びとした教育環境を提供できると思いますので、生保内小学校は今の計画で進めて欲しいと考えております。

門脇市長 ありがとうございます。教育長としては、当然その主張が必要でしょう。ただ、神代小学校や西明寺小学校が建築になった時代背景とは全く違う。さらに、その当時の社会情勢から見るとあの当時は、日本の国が人口減少国だという認識がない時の状況です。今はもう人口減少、1年間で25万人が日本から人が出回っている状況があって、さらに言うと、仙北市は所帯が小さいので、そういうことがわかって方向転換ができないくらい巨大な組織ではないので、その事象がわかった時点で様々な転換をしていくことができる自治体だという強み、これもぜひ判断に加えていかなければいけないという思いがあります。

今、色々なご意見をいただきました。他にこの場面で追加してお話していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

坂本教育委員 すみません。もしかして、最初に説明があったことかもしれませんが、北校舎を改修しないという案の場合、北校舎はそのまま、全く手をかけずに残るといったことなのではないでしょうか。子ど

もたちはそのまま使用するというのでしょうか。

熊谷教育長 放課後児童クラブが中心に活用します。

門脇市長 ただ、デメリットとしては、改修した方は、リノベーションされた良い校舎ですけれども、そこだけ旧態依然としたもので環境的には劣悪な環境の状態です。

坂本教育委員 わかりました。ありがとうございます。

門脇市長 私の方から質問で、対象外事業について、もう一度説明をお願いしてもよいでしょうか。

小林教育総務 対象外事業については、資料の5 / 7をご覧ください。まず、  
課課長補佐兼 ※1について、現在北校舎と南校舎を繋ぐ渡り廊下に、以前放  
管理係長 課後児童クラブで使用していた古い音楽室の木造の建物と給  
食搬入口が付いております。こちらにつきましては、木造である  
ことと確実に工事の妨げになるということで撤去をせざる  
を得ない状況にあります。それと、体育館の後ろ側にある木造  
倉庫部分も撤去の必要があるということで、先に撤去をしてから  
工事を始めることとなります。その部分の概算で900万で  
す。※2の一部増築について、バリアフリー対策ということで、  
校内の動線を法令準拠するため最低限の必要な勾配を実現す  
ること、現在の各校舎の高さが不揃いな部分の調整、エレベ  
ーターの設置など、この部分は長寿命化事業の中で、面積として  
中に入らなければ単費(一般財源)での対応になるということ  
で、県の方から聞いており、設計上では実施設計をした中で精  
査する部分だと考えておりますので、概算で6,000万とい  
うことで計上しております。※3の外構改修工事について、5,  
000万で計上しておりますが、これについては、北校舎と南  
校舎の間の様々な構造物、今まで建っていたものを撤去したあ

とに不陸調整の上、その部分の有効活用と、冬季間の除雪等の対応など考慮し一年を通じて使用できる状況をつくるための外構改修工事です。概算でありますので、面積や用途など様々な面で増減はあるものだと考えております。※4について、北校舎の長寿命化を実施しない場合の工事費の概算額ということで参考として載せております。

門脇市長            ※4の北校舎（長寿命化を実施しない場合）改修工事費概算の4,620万というのは、北校舎を改修しないとなった場合はどうなりますか。

小林教育総務        本当に改修しないのであれば、かかりません。  
課課長補佐兼  
管理係長

門脇市長            敷地内の不要建物撤去工事費900万、これは致し方ないとしても、長寿命化改良工事（2ヶ年工事）一部増築の6,000万の対象面積、例えばバリアフリーの対応というのは、自分の認識の中では、文科省がそもそもそういうことをやらなければいけないという前提の下で交付金事業をつくっているんですけども、これはなぜ対象にならないのでしょうか。

小林教育総務        今までの面積分のみを長寿命化するのであれば、その面積の中に全部収まれば（交付金対象事業となり）一般財源事業に該当しません。例えば『対象面積の内側でバリアフリー化するために床を直しました』であれば問題ないんですが、今回の建物は、それぞれのフロアの高さが南校舎と北校舎で微妙に違うので、その（新たに床面積が増える）部分が対象外と考えられます。建築設計等をもう少し詰めれば何かしらの対処法はあるかもしれませんが、何回かやり取りした中では、勾配を調整するのが一番費用を抑えられると考えられます。

門脇市長

例えば、他の分野で恐縮ですけれども、老人保健施設で一時期、高齢者の方々の入居者が増えて増築をしたところが全国にいくつもあって、そういうところが老朽化している現状があった時に、厚生労働省では、それに対して改修工事の交付金を出しています。文科省がそもそも校舎間の段差があるということを対象外だという話をしないと思います。

小林教育総務  
課課長補佐兼  
管理係長

あくまでも原則論で、設計をつくり込んでいるわけではないんですが、1つ言えるのは、長寿命化改良事業以外のバリアフリー大規模改修のような（交付金）メニューもございます。ただ、それを併用するということは難しいという話です。長寿命化改良事業であれば、全体を網羅でき、交付金の対象ですという回答はもらっています。資料の6/7とほぼ同じ資料を県に一度見ていただいて国に照会をかけてもらっていますが、この増築部分に関しては、バリアフリー対策部分だとしても（交付金対象と見做すことは）厳しいという回答です。

門脇市長

いずれにせよ、交付金対象事業ということで行う部分については、議員の方も私たちも当然早くやりましょうという話になります。ただ、それ以外の一般財源を3億投入するという考え方は、今の市の状況を理解している方々は非常に驚くと思います。それは厳しいです。ですので、いくらかでもそれを改善していくという作業を努力しなければいけない。その努力を教育委員会の方々はされましたかという話をされた時に、どうお答えできるかだと思います。今言っている北校舎の1つの案、これはあくまでも案の1つです。もしかしたら、皆さま方の中からもっと素晴らしい案が出るかもしれないということを期待して、今日の教育会議を開催したということです。ところが、言い方が大変恐縮ですけれども、教育委員会の事務局の方々は、総務部で提案した案件についてはお答えしていただい

ますが、新しいアイデアをお出ししていただけていないと私は思っています。それがベストだと皆さま方が思って確信して、議会の皆さまに説明していただけるということであれば問題ないのかもしれないけれども、通常考えられる範囲としては、議員の方々から色々な話が出てくることは間違いないと思います。例えば、教育長をはじめ教育委員の皆さま方は、当初の計画で進めるべきだと。安部教育長職務代理者の場合は、空き教室が出てしまうということは懸念しなければいけないという話は出ました。しかしながら、教育長は、そもそもゼロベースからのスタートではなくマイナスベースからのスタートで、今まで子どもたちが耐えてきた生保内小学校の改修を今まさに普通の義務教育を行う小学校に改善できるチャンスだという捉え方にして欲しいということですね。

皆さま方から他にご意見ありますか。

阿部総務部長

私考えるに、将来的に生徒数が少なるので、今の計画のままではよいのかという問題が1つあるんですけども、ただ、先ほど橋本教育委員がお話したように、今北校舎を改修するのであれば、生徒が少なくなったあとの活用の方法も検討していただいて、説明がつくような形で出していただければありがたいです。たしかにトイレや教室のこともありますし、私たちが改修をしなければならないのは十分わかっております。ただ、必要以上のものをつくってしまって、そのあとは空き教室でよいのかという点だと私は思っています。今、北校舎を使用しない案と北校舎も全て改修案がありますが、北校舎を使用する・しないに関わらず、7/7の案が使い勝手が良いのではないかと私は思います。そういった検討が必要ではないのかなと思います。最終的には、北校舎を中学校の教室として併用して使用できるのではないかと、くらいの議論があった方がよいのではないかと考えています。以上です。

橋本教育委員 1つ質問ですが、よろしいでしょうか。

門脇市長 はい。

橋本教育委員 放課後児童クラブについて、生保内小学校ですごく人数が多いということで、できれば別棟のものを建てていただきたいというような声があるようなことを聞いておりますけれども、もしそういう声があるとすれば、北校舎をそういう部分に活用するというのも1つの手ではないかと思えます。

門脇市長 まさにその議論をしていて、これは教育委員会の対応ということではなくなる可能性は高いんですけども、市民福祉政策の中で、放課後児童クラブの現場としてどうなのかという議論、市役所としては当然考えなければいけないことだと思います。

朝水総務課長 少し、よろしいですか。

門脇市長 はい。

朝水総務課長 数年前に私も教育委員会にいて、総合給食センターを検討した時も一度予算を止められて再提出という形になりました。議員の皆さんも、この生保内小学校の計画に対しても再検討した方が良く考えていると思います。総合給食センターの時も、必ずあの場所にしなければいけなかったという理由を述べるにあたって、温かいご飯をみんな同じくらいの距離で届けられるからこの場所が良いと。ただ、その理由であれば、保温できる車を買えばどこに建てても良いのではないかと、まだ使用できる西木給食センターを使用すれば良いのではないかと、そういったことも色々検討したのか、という話が出ました。やはり、様々な提案がされた中で、1つ1つこちらで議論してきたかという

としていなくて、やらなければいけないのはみんな同じ思いで、やはりそのへんを議員の皆さんにも問われました。先ほど教育長が言ったように、マイナスベースからのスタートで子どもたちが可哀想だと。しかし、それだけを盾にして向かえば、それは当然みんながわかっていることだと、他にもこういう方法もあるのではないかということを経々検討した中で、交付金や色々な関係で一番有利なのがこの案だというふうに、議会の皆さんとも同じ認識で持っていないといけないと思います。例えば、小中一貫校について我々が言ったのは、小中一貫校はやはり生徒たちのためには難しいけれども、1つの建物の中に小学校と中学校がある形、一貫校にしなくても建物が1つとなれば、将来的に維持管理は2校建てるよりは1校の方が管理しやすい。仮の話としてもそういった提案があれば、色々な検討をした中で今の段階では一番有利な補助金で行えるのがこれですとか、先ほど阿部総務部長が言ったように、教室が空いたら将来的にこういう使い方をしていきたいとか、そういったふうに持っていないと、中々議会を通すのが難しい状況になってしまうと感じました。

門脇市長                   これを機会に皆さん発言していただければと思います。

三浦教育次長           よろしいですか。

門脇市長                   はい。お願いします。

三浦教育次長           心配されるのは、例えば、建物をどういう使い方をするのかは別として、北校舎に全く手をかけないでその建物を学校の敷地内に残した時に、数年後にかなり危険な状態になると思います。本来、子どもたちの安全が担保されなければいけない学校の敷地内にそういう危険な建物があってよいものか、もし今使用しないのであれば、やはり解体するべきだと思いますし、そ

こも含めて考えていかなければならないのではないかと思います。

門脇市長                   ありがとうございます。

熊谷教育長               小中一貫校の話ですけれども、今の北校舎について将来的には、中学校と繋げた校舎というのはできないけれども、小中一貫校というイメージを持った小中共同で活用できるような形、多目的スペースとして使用できれば良いと考えています。柔軟に使用を検討できるように今の北校舎を危険校舎にしないで、長寿命化事業で改修して、将来的には中学校と繋がりを持った使い方をしていければ良いと思っています。

倉橋副市長               今の教育長のお話は、中学校の校舎に使うということですか。

熊谷教育長               いずれ共同で使用できれば良いと思います。

倉橋副市長               次の生保内中学校の改修はいつですか。

小林教育総務           約10年後です。

課課長補佐兼  
管理係長

倉橋副市長               私は、その時の改修はできないと思います。生徒数が減っているということもあるし、今この大規模改修をして、10年後に生保内中学校を大規模改修というのはできないと思います。今の段階で全部を改修したとして、北校舎を将来的に小学校も中学校もこちらに入りますというくらい話をしないと納得はしないと思います。そうした場合に多少の増築というのはあり得るかもしれませんが、生保内中学校に手をかけることはできないと思います。そこまで腹をくくらないと、今もし全部を



改修するとすれば、そのぐらいの判断はしていただきたいと思っています。

門脇市長

今の統計からすると、10年後はさらに厳しい状況がくると思います。その時に生保内中学校の改修を行うとなった時の論点は、なぜ生保内小学校の大規模改修の時に一緒に議論しなかったんだということに必ずなります。

安部教育長職務代理者

教育長へこのような言い方で申し訳ないんですけども、今そういう構想で中学校の生徒も北校舎を使った方が良くというお話ですけども、現実的に中学校の校舎から北校舎に移動して授業するということは、ちょっと無理があるのではないかと思います。将来的に小中一貫校にするということであればわかるけれども、はっきりとした方針がなければ厳しいと思います。それよりだったら公民館のような機能を備えて、きちんと方向性を決めてからの改修であればわかるけれども。

門脇市長

この間も総務部と教育委員会の協議の中で、地域の学校を地域の社会教育の拠点という考え方で、公民館というのはどうでしょうかとこちらからも提案しております。提案していますが、教育委員会の方からそれは現実的な話ではないということで話が終わっています。

私たちが言っているのは、そういう様々な活用の仕方というものがあるから、全体とすれば全体の大規模改修を判断しましたという話をしていただければ良いです。ただ、そうでない状況で、例えば、ゼロからのスタートではなくマイナスからのスタートですということだけでは納得させるのは難しいと思います。教育長の話も十分わかるんですけども。

今後、1億でも、2億でも5,000万でもこういった議論をしていかなければいけない状況です。そこはご理解いただいて、最大の効果を実現するためのお金の使い方をするというこ

とが市民の方々への責任です。ここ数年でさらに厳しくなっていくと思います。そういう認識の中で議論をしていただきたいと思います。

他に新しい着眼点、議論しておかなければならないことはありませんか。今の議論は、このあと議会の皆さまを通じて、市民の方々に対する説明の際の大きな財産になりますので、他に議論しておかなければいけない視点がありましたら、ぜひお話してください。この場面での判断はしないことにします。

坂本教育委員 10年後の生保内中学校の改修が予定になっている頃、児童数・生徒数がどのくらいになっているかわかりますか。

倉橋副市長 昨年度の出生者数が生保内地区・田沢地区で10人前後です。今年度の予測ではさらにそれを下回る可能性があります。これが劇的に増えていくという要因が今のところ見い出せません。もしこのまま10人前後で推移するとすれば、5年後くらいからは、入る子どもは10人前後だと思います。このことを十分に考慮しないとこの学校の議論はできないと思います。合併してから、角館小学校、神代小学校を建てたんですけども、その時は今ある学校をそのまま改修・新築することにだれも反対しなかったんですけども、今はそういう状況ではないのではないか、というのがこの議論のスタートです。これは生保内だけの話ではないです。全体で100人を切っていますので。

阿部総務部長 少し補足させていただければ、今の5歳児が市全体で124人、4歳児が143人、3歳児が147人、2歳児が120人、1歳児が110人、0歳児が99人、今年出生予定が72人という状況です。

倉橋副市長 どういう理由かわからないですが、急激に減っております。

門脇市長

そういう状況が統計でもう明らかになってしまいました。それがわかったのがつい最近で、わかって今この計画をそのままやるのかという話になってしまいます。もう10年後は仙北市の人口も2万人を切ります。そうすると地域の中で様々な問題がでてきて、しわ寄せが学校に押し寄せてくることは十分考えられます。安全対策を含めて。その時にどういう学校のビジョンを持てるかということだと思います。ただ、将来のことばかりを考えていて、今の人たちに我慢してもらおうということは良くない。今の人たちが次の時代をつくる人たちですから、今の人たちに特に教育は不自由させないようにしなければいけないことは、私たちもよくわかっています。今をないがしろにして将来を語るということではないことは、ご理解いただきたいと思います。

皆さま方から正直なご意見もいただきましたので、このご意見をもう一度私たちなりに精査させていただいて、この改修のあり方について、最も適切なあり方の方向性を集約したいと思います。

熊谷教育長

教育委員会でももう一度検討して、再度教育委員の皆さんにも集まっていたいただくとすると総合教育会議の場になるかと思いますが、教育委員会の考え、方向性について見直したいと思います。

門脇市長

重要な案件ですので、総合教育会議の招集者は私ですので、そういう場面が必要であれば総合教育会議という形にさせていただいても結構です。

熊谷教育長

わかりました。そのようにさせていただきます。

門脇市長

この案件については、多くの議論をいただきましたのでこれ

で終了したいと思います。ご議論いただきありがとうございます。ありがとうございました。

今日の総合教育会議は、総合教育会議が設置される目的のいくつかを議論した大変重要な会議でした。総合教育会議の趣旨というのは、学校施設整備に関することなどが本来的に協議しなければいけない事案です。かと言って、市長が本来あるべき教育行政に過大な口出しをすることがないようにしなければいけないことは、当然必要なことだと思っていて、今回の施設整備に関する議論において適切であったかは、もう一度、今日自分で振り返りたいと思っています。

その他で報告事項等はありませんでしょうか。

門脇市長                    ないようですので、進行をお返しします。

阿部総務部長            大変長い時間でしたが、ご協議いただきありがとうございます。ありがとうございました。

(午後 5 時 1 5 分終了)

上記会議録に相違ないことを認め署名する。

仙北市長

仙北市教育委員会教育長

仙北市教育委員会委員